

赤ちゃんのお腹の食物アレルギー（FPIES）研究

この研究は、赤ちゃんに増加傾向にあるIgE非依存性の食物アレルギーである新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症（FPIES）病態を解明し、発症危険因子を探索することを目指しています。将来的には、これらの研究成果を基にFPIESの迅速診断キットの開発につなげることを目標としています。



なぜこの研究が必要？（研究の背景・課題）

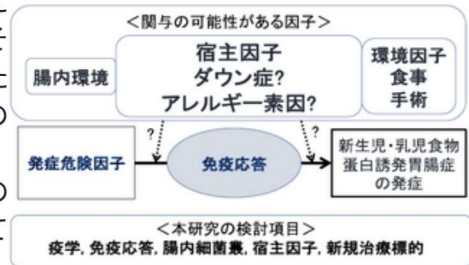
新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症（FPIES）は近年患者数が増加しています。しかし、その病気がなぜ、どのように起こるのかは十分に解明されておらず、どのような因子が発症に関わるのか（発症危険因子）も不明なままです。現在の治療法は原因食物の除去のみであり、FPIESに対する特異的な治療法が存在しないことが大きな課題となっています。この研究は、これらの未解決な課題に対し、病態解明と危険因子特定を通じて診断・治療法の開発に貢献することを目指しています。

具体的に、どんなことを研究しているの？（研究内容・技術の概要）

この研究では、FPIESになった赤ちゃんたちを対象に、なぜこの病気が起こるのか（病気の仕組み）や、どんな赤ちゃんがFPIESになりやすいのか（危険因子）を調べています。

具体的には、FPIESの症状が出ている赤ちゃんの血液中に増える特定の物質（IL-2やIL-10）がこの病気を区別するのに役立つと期待されています。また、ダウン症の子どもたちは、そうでない子どもたちよりもFPIESになりやすい傾向があることに注目して、その関係を調べています。

お腹の中で体の免疫細胞がどう反応しているかや、お腹の中の細菌（腸内フローラ）がFPIESに関わっている可能性についても調べて、病気の仕組みを詳しく解明しようとしています。



この研究が進むと、どんな未来につながるの？
（実用化・社会への貢献）

この研究が進むと、主に以下のようなことが期待されます。

- ① FPIESを早く、そして正確に見つけるための検査キットが開発される可能性があります。
- ② FPIESになりやすい赤ちゃんを前もって知ることができるようになり、予防や早期の対応につながるかもしれません。
- ③ 病気の仕組みがさらに詳しく分かれば、今は原因食物の除去しかないFPIESに対して、新しい治療法や予防法（例えば、お腹に良い細菌を使う方法など）が見つかる可能性があります。



先進ゲノム編集治療研究部門

（小児科学講座）

近年FPIESは増加傾向にあります。この病気について新しい知見が得られることにより、この病気でお困りの赤ちゃんやご家族の力になれると信じて、日々診療、研究に励んでいます。

